

## 大学の世界展開力強化事業（平成27年度採択）事後評価結果

大 学 名	東京大学
整理番号	L-4
事 業 名	チリ・ブラジルとの連携による理工フロンティア人材の育成

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価  <b>A<sup>-</sup></b>	一部でやや不十分な点はあるものの、概ね事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現されたと判断された。
コメント	
<p>本プログラムは、交流相手国のチリとは天文学・宇宙科学、ブラジルとは海洋技術・航空技術の分野において、貴学と世界トップレベルの共同研究を推進する過程の教育・研究の緊密な協力関係を築くとともに、国際的視野を持ち科学・技術のフロンティアで活躍できる若手人材を育成することを目指して実施したものである。</p> <p>プログラム展開は概ね順調に推移し、それぞれの分野において先端的共同研究を推進する大学院生を対象に多様な研修・交流機会を提供する一方で、学術的な成果を上げている。プログラム開始2年目には新たにブラジルの3大学を加え、貴学とブラジル5大学の学生が遠隔講義により単位取得可能な実践が継続しているほか、貴学の教員がサンパウロ大学大学院で集中講義を行い学生が単位を取得したり、日本人学生がチリ、ブラジルでインターンシップやフィールド演習を受講し単位を取得するなど、参加学生に多様な教育機会を与えることに繋がっている。多数の大学をネットワークで結び、共同で授業運営をすることが可能な研究者レベルの交流をベースに、学生の派遣・受入、単位認定を円滑に行う事務支援体制も整っており、こうしたリソースを活かして共同研究の推進だけでなく、学生交流と教育機会の多様化を発展的に進めていることは評価できる。</p> <p>一方で、派遣・受入学生数については、中間評価時に指摘があったにも関わらず目標達成を大きく下回り、交流プログラムの多くは単位取得を伴わない短期交流がほとんどを占めていることや、受入学生の単位取得は僅か1名のみであった。学術フォーラムの開催に伴う研究教育体制の活性化に限らず、本事業の目的であるグローバルに活躍できる人材育成に向けて、プログラム運営に大学全体としてより一層組織的に関わることが求められる。また、海外相手大学数を増加させ、ブラジルの大学とは授業提供による教育課程への参画と呼び得る試みが見られたが、チリの大学との間では小規模の研究交流に留まっている。共同研究の発展と国際的授業の提供を実現したものの、単位互換や学位授与に至る教育的取組の拡大がほとんど確認できなかった。貴学は国際化が進んでいる大学であるとの認識を十分に持ち、大学全体の取組としてさらなる国際展開への努力が求められる。</p> <p>最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的なプログラム展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、さらなるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。</p>	